

# こども通信

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-  
iin.com



厳しい季節になりました。猛暑の中で、コロナがかつてない規模の流行に。行動制限はないとはいえ、その分それぞれが注意して行動する必要があります。

このストレスいっぱい状況がいっになったら収まることでしょうか。しばらくは辛抱ですね。

\* \* \*

新型コロナ第7波は、私たちの想像以上の規模の流行になりました。このころ世界で最も患者発生が多いのは日本です。

症状が軽いとはいえ、自宅療養しなくてはなりませんし、一緒に生活している人たちは濃厚接触者として自宅待機が求められます。その負担は少なくありません。不思議なのは、私たちはそれなり



に行動に気をつけていたはずですが。特に日本人はマスク着用には抵抗がなく、むしろしっかり守っています。それでも大流行になるといのは、それほど感染力の強いウイルスなのか、私たちの対応がまだ不十分なのか、考えさせられます。

第6波から子どもたちの発生が増えたために、小児科外来が主戦場になりました。特にこの第7波では、他の感染症も流行しているために、混乱がみ。

熱や咳などがあっても、それがコロナなのかそうではないかを先に見極める必要があります。当院では屋外で受付をし、その時点でトリージと、必要に応じて迅速検査（抗原定性）を実施。結果を見てから対応するようにしています。

## 感染症情報

新型コロナウイルス感染症の発生数は7月に入ってから増加に転じました。その後流行が凄まじいスピードで拡大し、下旬には過去最高の患者数になっています。第7波がBA.5に置き換わったための変化ですが、急速な流行拡大が社会生活に大きな影響を与えています。主体は子どもたちや若い世代で、症状は軽いようですが、今後高齢者の発生が増大すると医療逼迫が激しくなることでしょう。

当院も含めて一般医療はかろうじて成り立っている状態ですが、こちらも患者数の増大により、緊迫した状況になる可能性もあります。

必要な感染対策を徹底するとともに、ワクチン接種の対象者の方は早く済ませるようにしてください。行動制限は課されていませんが、その分個人での対策をしっかりと行ってください。

感染性胃腸炎の流行がまだ残っています。子どもたちは脱水や低血糖になりやすく、ぐったりしている場合はすぐに受診してください。

季節的には細菌性腸炎の発生も心配です。食品の衛生管理にも注意を払ってください。

このほかでは溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎などが少しずつ発生があります。

手足口病が新潟県内で「警報」レベルの発生です。これまでは長岡地域での流行が主でしたが、次第に周囲に広がっているようです。今後の動向に気をつけていてください。

このような方法を取ることで、ある程度スムーズに診療を行うことができていると思います。しかし、今後さらに患者数が増大すれば、また状況が変わって来ます。その時々様子をしながら、当院ができる最大限の方策を模索していきたいと思っています。

### 今月の予定

院長・副院長出務  
休診 13日(土)  
上越市夜間診療所勤務 17日(副院長)  
上越有線放送「健康ライフ」16日  
FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」  
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)  
感染症情報(毎週)  
FM上越: 木曜午後1:35頃～  
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)  
医院ホームページ内

## 新型コロナ

### 大流行下での夏休み

新型コロナ感染症の発生から3回目の夏を迎えています。今シーズンは第7波の真っ只中。過去最高の患者発生があり、それも子どもたちが中心になっていることは、これまでとは全く異なった状況です。

さらに、国が「行動制限を求めない」としていることも、これまでになかったことです。

大流行ではあるけれど自由に活動できるといふ、これまではなかった夏休み。その中で、感染を予防するのは、いわば個人の責任だとされているようにも思えます。子どもたちを感染から守るのは親御さんの責任ということなのでしょう。

#### ●適切な感染予防を

行動制限はしないとは言っても、何も対策をしなくてもいいと言っているわけではありません。個人ではマスク着用、手洗いなどは引き続き励行を。でも周囲に人がいない、一定の距離があるなどの条件が揃えば、

マスク着用は不要です。

室内での感染が多く発生していますので、密集することは避け、しっかりとした換気が必要です。事業所や飲食店などのほか、自宅でも同じです。今はエアコンを使っていますので、換気することを忘れがちです。で、注意してください。

#### ●コロナ以外にも注意を

新型コロナにかからないように十分に注意してもらっていますが、現在流行している感染症はそれだけではなくありません。感染性胃腸炎、夏風邪、アデノウイルス性咽頭炎、溶連菌感染症、手足口病、ヘルパンギーナなど、多くの感染症が子どもたちの中で流行しています。

予防策はおおむね同じです。密集を避け、手洗いをこまめに行い、必要に応じてマスク着用を。体調を良い状態にしておくことも大切です。で、食事内容や睡眠時間にも注意をしてみてください。

#### ●感染症流行がない反動

コロナ対応をしつかり行った結

果、一時期は子どもたちの感染症が

ずいぶん少なくなりました。それはそれで良かったのですが、罹患しないまま年数が経つと、その病気に対する免疫を持たない子どもたちが増えてくるので、次に流行した時には大規模になることが想定されます。

余談ですが、ここ2年間インフルエンザの流行はありませんでした。しかし、南半球のオーストラリアではインフルエンザの大流行が起きています。北半球でも次の冬に大流行になる可能性は大きいのではないかと心配しているところです。

コロナのことだけを心配してれば良いということではありません。他の感染症にもかからないように、また猛暑の中で熱中症にならないように引き続き十分に注意を払ってください。

#### ●コロナ禍の健康作り

一方では、子どもたちの健康づくりという点では、感染症対策の徹底が逆に問題になってきます。体を思いつき使ったり、家族や友だちと楽しく過ごす時間が削がれてしまい

ます。家の中にこもっているだけ、テレビやスマホを観ているだけの生活は、やはり不健康です。

子どもたちの中ではここ2年半の間に、体力低下、肥満、視力低下などがさらに拍車がかかり、大きな問題になっています。子どもたちの身の健康をどうやって守り、作り出していくかは、今後の大きな課題と言えましょう。

コロナ対策をしつかりやったら、別の病気になった、ということでは、シャレにもなりませんね。

では何をどうすればいいのか。すぐに答えが出てくるわけではありませんし、家庭によっても、また子どもたちそれぞれによっても違うことでしょう。

各家庭で気になることを探し出し、どう対応すればいいかを考えてみてください。大人も一緒になって考え、行動することが大切です。

そんな中でできてくる健康作りを意識した日々の行動は、子どもたちだけではなく、きつと大人の健康作りにも役立つものになると思います。まずは動き出しましょう。